

青山学院大学大学院

国際マネジメント研究科 国際マネジメント専攻

国際性豊かな授業と講師陣

グローバルに通用するカリキュラムが充実しているのが同校の強み。「海外招聘教員講座」では、コロンビア大学やカーネギーメロン大学などの教授を招いて授業を行う。実践的なプロジェクト科目も多く設けており、海外のビジネススクールの学生と競い合う「マネジメント・ゲーム」やプロのファンドマネジャーのコメントを受けられる「ファンド・マネジメント・シミュレーション」、新規事業計画書を作成する「ビジネス・プランニング」などがある。

同校では昼間に受講するフルタイムMBAとともに、平日の夜間と土曜日に開講するフレックスタイムMBAも用意。キャンパスは表参道にあり、交通の便も抜群だ。



選ばれた理由

- ・立地条件がよく通いやすい
- ・知名度が高い
- ・通っている人からの評判が良い

選ばれた理由

- ・カリキュラムが充実している
- ・仕事と両立できる開講時間のカリキュラムがある
- ・ビジネススクールとして歴史がある

産業能率大学大学院

総合マネジメント研究科 総合マネジメント専攻

成果を創出するマネジメント実践力を育成

同校では、所属する組織への貢献と自らのキャリア形成を目指す、管理職層の育成・強化に主眼を置いたカリキュラムを設けている。管理職層に必要な「職場をマネジメントする力」と「業務をマネジメントする力」を、同大学総合研究所のコンサルタントや企業のトップが講師を務める実学志向の授業を通して学んでいく。修士論文に代わる課題解決ゼミでは、学生の勤務先の企業が抱える課題をテーマにして解決策を立案する。学生が会社に持ち帰った解決策は、会議で取り上げられたり、実践される場合もある。

授業は平日の夜間(19時開始)や土日に集中開講するものが多く、指導教員と話し合う課題解決ゼミも土曜日に開講されている。



選ばれた理由

- ・知名度が高い
- ・仕事と両立できる開講時間のカリキュラムがある
- ・立地条件がよく通いやすい

早稲田大学ビジネススクール

大学院商学研究科専門職学位課程ビジネス専攻
MBA(夜間主)プログラム

高い専門性を持ったMBAホルダーを輩出

同校のMBA(夜間主)プログラムでは、専門分野別に入学者を募集しており、ビジネスパーソンが専門的なスキルを再構築できる場となっている。



入学後には、4つのケーススタディーを行う「新入生イントロダクション合宿」を1泊2日で実施。MBA教育の中核であるケースディスカッションを体感した上で、新学期に臨むことができる。合宿中には懇親会も開かれ、さまざまな業界で働く学生たちが交流を深める貴重な場にもなっている。

同校に併設している全日制コースでは、キャリアチェンジや留学を考えている人向けのカリキュラムが用意されており、入学希望者の幅広いニーズに応えている。

東・西 上位校にインタビュー

人気ビジネススクールの魅力に迫る

今回のアンケートでは、国内でMBAを学べる72コースを対象として、行ってみたいビジネススクールを選んでもらった。東日本、西日本のそれぞれで上位に選ばれた大学院の魅力と強みを分析する。

東日本 第1位

慶應義塾大学大学院

経営管理研究科 経営管理専攻

修了生の活躍がレベルの高さを物語る

実在する企業を題材とした実践的な科目を新設
本研究科の強みは、経営者育成に主眼を置いたカリキュラムの内容にあります。経営全般を網羅した8つの主要科目を学ぶことにより、総合的なマネジメント能力を身に付けられます。また、授業では全面的にケースメソッドを採用しており、実際の企業の経営状況をまとめたケースを題材にして、学生同士でディスカッションを重ねて意思決定をするトレーニングを行います。
今春、新たに開講した「集中企業研究」はより実践的な科目です。実在する企業のリサーチを行い、その企業が現在抱えている問題の改善策を考え、最終的には経営陣の前でプレゼンテーションを行います。この科目は、「授業で身に付けたスキルを実務で試したい」

という学生のニーズを実現したものであり、今後も学生からの要望をカリキュラムの中に反映していきたいと考えています。
3000人の修了生と交流が持てる学習環境
本研究科は30年以上の歴史を持ち、これまで約3000人の経営学修士を送り出してきました。彼らが企業の中で重要なポジションにつき活躍していることが企業派遣の研修先として多くの企業に選ばれる理由です。また、人事担当者が本校の修了生であり、授業の充実度を実感している場合もあります。
入学してからは同期の学生とのヨコのつながりだけでなく、幅広い業界で活躍する修了生とのタテのつながりも実感し、本研究科をスキルアップの場としてぜひ生かしてほしいと思います。



磯辺剛彦 教授 1981年慶應義塾大学経済学部卒業。同年に(株)井筒屋に入社。1996年に慶應義塾大学経営学博士を取得。流通科学大学商学部助教授、神戸大学経済経営研究所教授を経て、2007年に同校の経営管理研究科教授に就任。

慶應義塾大学の「ヨ」が知りたい!

Q1 学生は会社を長い間休むことに不安を感じていませんか?
多くの学生は、ビジネススクールがキャリアアップの重要なステップだと考えています。平日の昼間に授業を受けるので、平日の夜や土日だけの授業より時間・量ともに充実している点も魅力です。

Q2 奨学金制度は充実していますか?
「日本学生支援機構奨学金」などの各種奨学金制度や奨学融資制度(利子給付奨学金制度付き学費ローン)を設けています。また、独自の「サムスン奨学金」を毎年2名の優秀な学生に給付しています。

Q3 英語で行う授業や留学の機会がありますか?
国際単位交換プログラムにより、北米、欧州、アジアのビジネススクールに留学できます。さらに、09年度から海外でも学位を取れるダブルディグリー制度を始めました。

Q4 ほかの研究科の授業を受けられますか?
08年に新設したシステムデザイン・マネジメント研究科とメディアデザイン研究科に設置された科目の一部を履修できます。IT系企業の立ち上げを考えている人が中心となり、学生同士の交流も進んでいます。

日本経済新聞社と日経HRが共同実施した「ビジネススクール調査」で、国内で経営学修士(MBA)の講義を受けてみたいと思うビジネスパーソンが5割に迫った。通ってみたいビジネススクールは、東日本では慶応義塾大院、西日本では神戸大院がそれぞれトップとなり、早稲田大院や九州大院などの有力校が上位を占めた。(詳細を22日付日経産業新聞と「特別編集日経キャリアマガジン」に)

調査はNTTレゾナント「gouriサーチ」の協力を得て8月下旬、20〜40歳のビジネスパーソンを対象

「MBAに関心」5割近く

本社などビジネススクール調査

人気校ランキング

順位	学校名	人数
東日本	1 慶大院経営管理研究科	21
	2 青学大院国際マネジメント研究科	17
	2 産能大院総合マネジメント研究科	17
	2 早大院商学研究科	17
西日本	1 神戸大院経営学研究科	25
	2 九大院経済学府	23
	3 京大院経営管理教育部	19

(注)回答者数は東日本が333人、西日本が179人



早大院は専門性を持つ人材の育成が評価された

増えたり、奨学金の充実などで授業料の負担が軽くなったりすれば、人気は一層高まりそうだ。

通ってみたいビジネススクールで東日本首位の慶大院経営管理研究科は、修了生が優秀で企業からも評価されていると、この調査は主要企業100社調査も実施。会社負担で社員を

「通いたい」1位 東は慶応大院、西は神戸大院

象にインターネットで実施。512人が答えた。国内のビジネススクールでMBAの講義を受けてみたいか尋ねたところ、「受けてみたい」(13・9%)と「どちらかといえば受けたい」(34・6%)を合わせた48・5%で、約半数がMBAに関心を示した。理由は「職務上、必要な知識・スキルや経営に関する理論を学びたい」が56・0%で最多だった。

他方、「講義を受けたくない」と答えた人の半数以上が「お金がかかる」「仕事中の両立が難しい」「時間がない」ことを理由に挙げた。平日の夜や土・日曜日に受けられる講義がもっと

いるといった理由で支持された。西日本首位の神戸大院経営学研究科は、立地がよいと評価されている。また、企業が対象にした13日時点で94社から回答を得た。

この調査は主要企業14社に調査票を送り、10月22日時点で94社から回答を得た。